



ドイツ・ドレスデンのエルベ渓谷で、橋の建設が予定されている地点（06年8月撮影）＝ロイター

エルベ渓谷抹消

世界遺産登録
地元は建設優先

【ベルリン＝金井和之】スペインのセビリヤで開催中の世界遺産委員会は25日、ドイツ東部ドレスデンの「エルベ渓谷」の世界遺産登録を抹消すると決定した。登録抹消は72年の世界遺産条約成立以降、07年のオマーン「アラビアオリックス保護区」に次いで2例目となる。

エルベ渓谷の流域20キロが世界遺産に登録されたのは04年。その翌年に交通渋滞緩和を目的に橋の建設が住民投票で決定すると、世界遺産委は「景観破壊」だとして06年に登録抹消の可能性がある「危機遺産リスト」に入れた。しかし橋は着工され、世界遺産

委は昨年、橋ではなくトンネルにしないと登録抹消になると告げていた。

一方独側では、07年に連邦憲法裁判所が住民投票を尊重すべきだとの判断を下し、昨年には行政裁判所がトンネル案は生態系の破壊を招くため認められないとした。

地元住民の利便性を考えると橋をあきらめることへの懐疑論は根強く、「登録抹消やむなし」の雰囲気も。「橋の計画を含めて世界遺産登録が認められていたはずだ」との言い分に加え、世界遺産ブランドに頼らなくてもエルベ渓谷は古くから多くの観光客を集めてきたという自信もあった。

世界遺産委は、対象流域を狭めれば再登録が可能としている。オロブ同市長は「再登録の」道を見つけることが我々の使命」と話し、再登録を前向きに考える方針という。